

補綴処置の精密歯科治療とマイクロスコープの活用方法について

佐氏英介
サウジ歯科クリニック

クラウンブリッジの分野では、質の高いクラウンを製作するためにラボサイドにおいて顕微鏡が応用されてきた。近年、歯科臨床における顕微鏡の使用範囲は日増しに拡大し、補綴臨床においてもラボサイドのみならずチェアサイドでも顕微鏡が応用されるようになっている。

EBMの見地から、マイクロスコープを使用することにより補綴の治療成績が向上するという報告は存在しないものの、正確かつ精密に治療を行うことが歯科臨床において重要であることは、誰もが疑念を差し挟まないはずである。

補綴治療を成功に導くためには、技工操作を含めた様々な術式を的確に行うことで治療精度を維持することが重要であり、視野を拡大することで治療の質を可及的に一定に保ちながら、精密に各ステップを積み重ねた結果は、クラウンの適合精度に限らず咬合接触関係や歯冠形態などにも反映され、良好な治療結果を得ることにつながると考えている。また、失活歯のマネジメントにおいては精密な根管治療が必須であり、歯内療法専門医との連携が必要となる機会も多い。

今回は、クラウンブリッジの臨床ステップを提示しながら、補綴処置の精密歯科治療とマイクロスコープの活用方法について概説する。

【略歴】

2000年 神奈川歯科大学卒業
2001年 藤本歯科医院勤務
2009年 二階堂歯科医院勤務
2011年- サウジ歯科クリニック開院

【属団体・学会】

藤本研修会補綴咬合コース インストラクター
GPCメンバー
日本補綴歯科学会会員
日本顎関節学会会員
日本口腔顔面痛学会会員